

2008年3月期 中間決算説明会
事業改革への新たな挑戦

1. 中期的取り組み方針
2. 再編によりビジネスモデル転換を加速
3. サービスプロバイダー事業の展開
4. グループ本社移転

2007年11月8日

株式会社 CSKホールディングス

1. 中期的取り組み方針



■ 改革のロードマップと中期的取り組み方針

▽ 現時点



純粋持株会社化
戦略的事業投資
既存事業の構造改革の推進

サービスプロバイダーへ向け
取り組みを加速

- ・ 戦略的投資の事業化推進
- ・ 新たな経営基盤の確立

サービスプロバイダー事業の
飛躍的な拡大発展
社会に貢献し、社会とともに
成長する企業グループへ

- サービスプロバイダーへのシフト
- HD体制の仕組みの整備

- CSKシステムズを中心としたグループ再編
- BPOサービス分野におけるグループ再編
- グループ経営基盤の拡充

中期的取り組み方針

- サービスプロバイダーへ向け取り組みを加速
- テクノロジーサービス事業領域の更なる強化
- 金融サービス関連事業のリスク管理の徹底と安定的な収益基盤化

■ HD体制の新たなステップへ

▼ 現時点



グループ経営の仕組み構築のステップから新たなステップへ

HD体制 第1ステップ

■ サービスプロバイダーへのシフト

- ・提供する新たな価値の提示
- ・新たなサービスの芽を発掘
- ・CSKシステムズの事業改革推進
- ・BPO各社の着実な事業拡大

■ HD体制の仕組みの整備

- ・グループ管理制度
- ・キャッシュマネジメントシステム
- ・コンプライアンス体制の強化

HD体制 第2ステップ

■ CSKシステムズを中心としたグループ再編

■ BPOサービス分野におけるグループ再編

- ・関連する機能の集約と規模の適正化
 - 顧客ニーズに柔軟に対応可能な体制の実現
 - 新たな事業の創造と育成の環境の実現
 - サービスプロバイダー型ビジネス提供体制の実現

■ グループ経営基盤の拡充

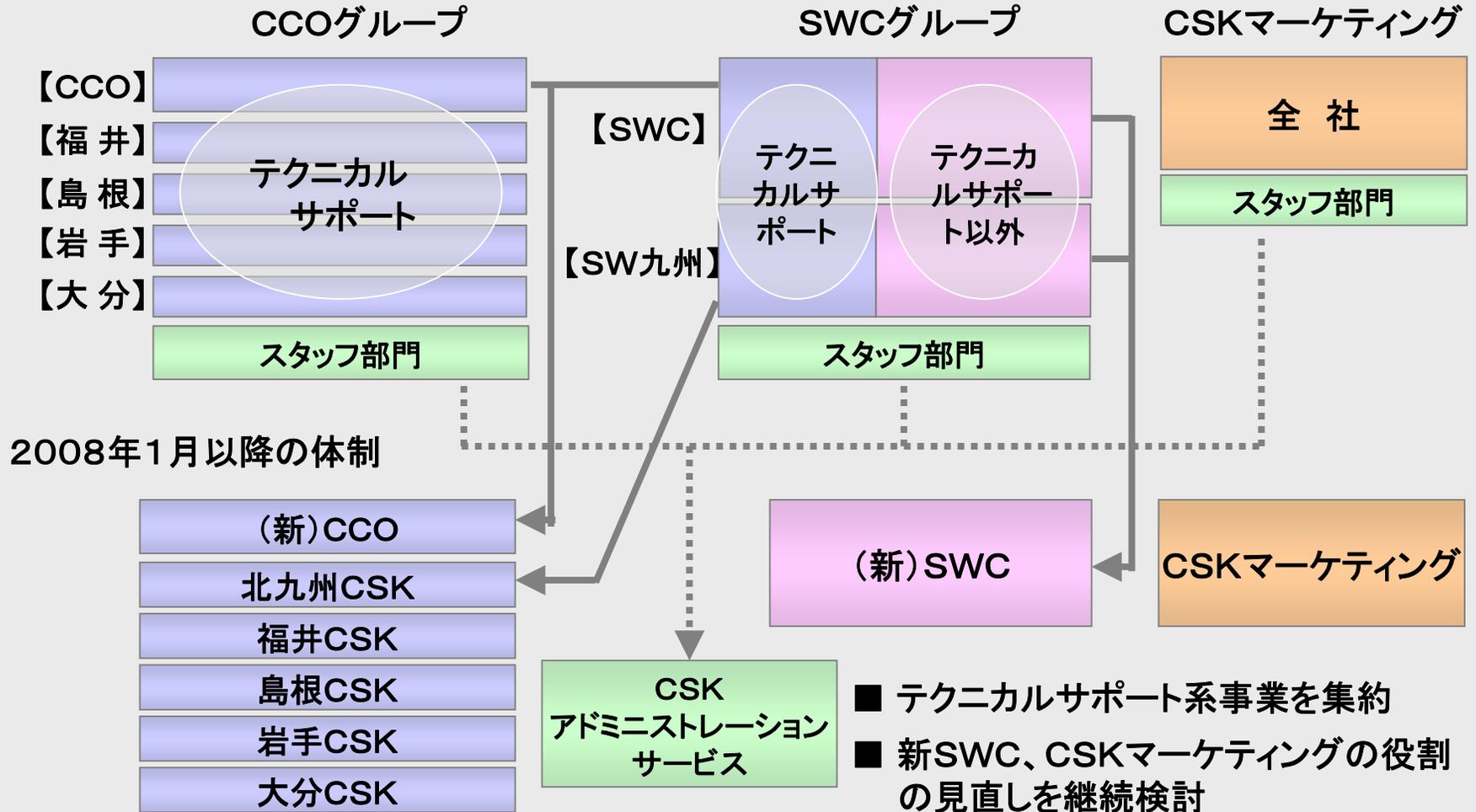
- ・グループ情報基盤の整備
- ・スタッフ機能のグループシェアード化推進
- ・内部統制の強化

2. 再編によりビジネスモデル転換を加速



■ BPOサービス分野 グループ再編の概要

CCOグループ、SWCグループ、CSKマーケティングの再編

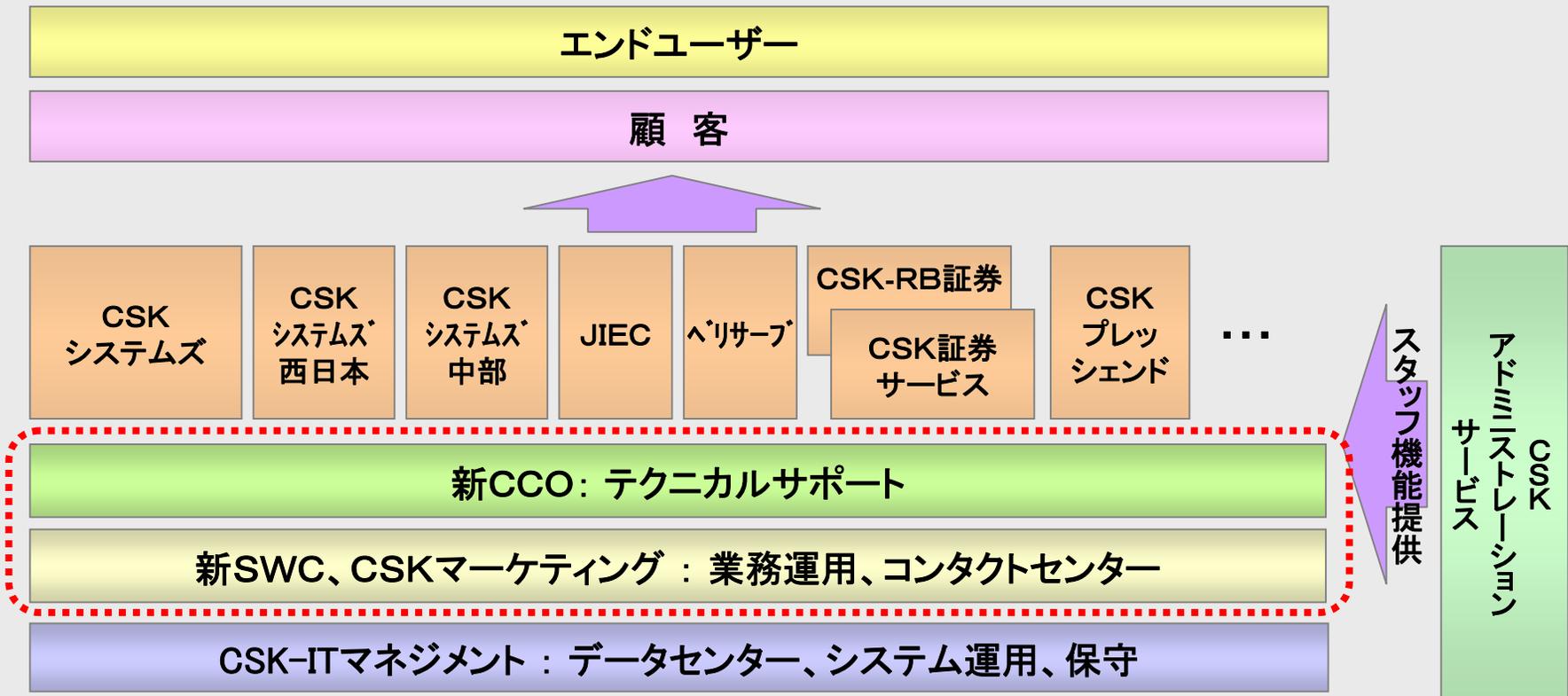


2. 再編によりビジネスモデル転換を加速



■ グループの再編の目的

サービスプロバイダー型ビジネスの提供体制の実現



- グループに存在する関連機能の集約と規模の適正化を実施することで、「迅速な意志決定による機動的な経営」と「専門性と創造性の追求」を目指す
- 顧客ニーズに合わせ、グループ各社が協業してサービス提供する体制の構築

3. サービスプロバイダー事業の展開



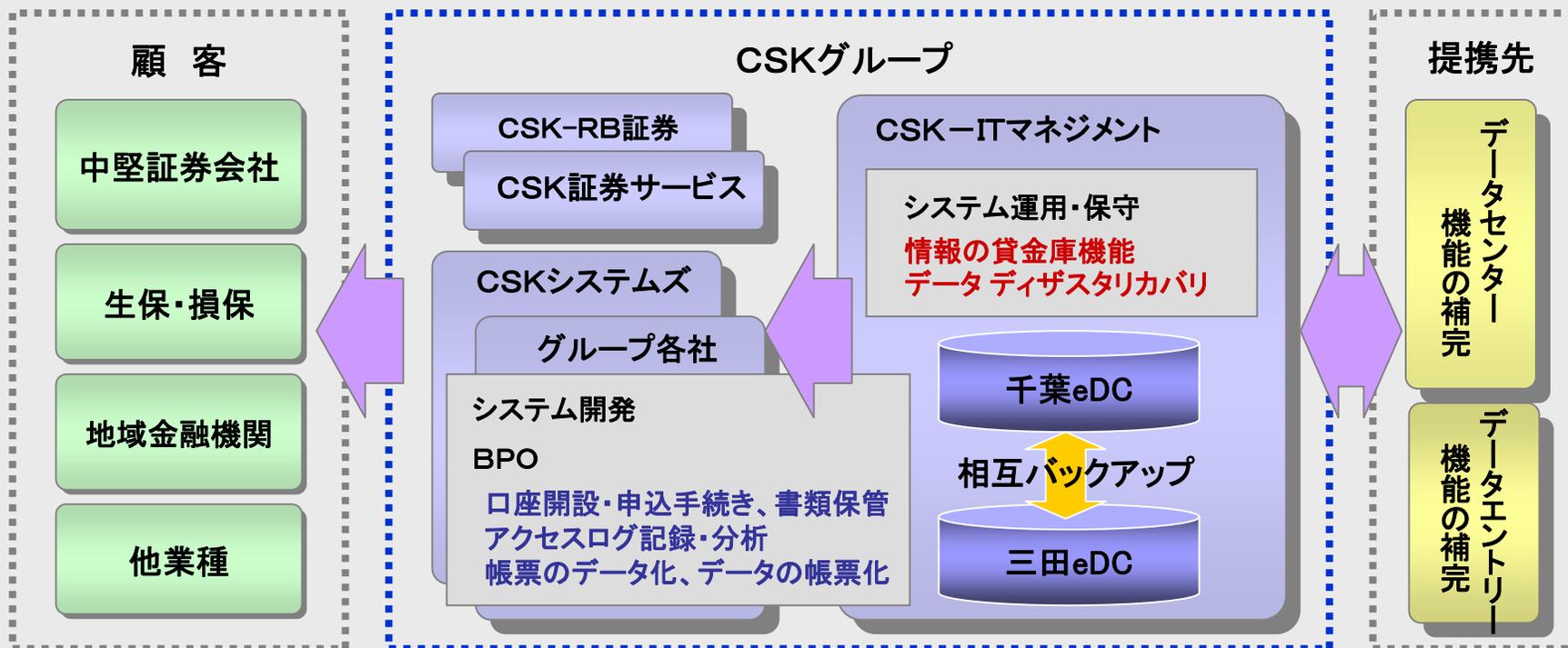
■ CSK-ITマネジメントのデータマネジメント事業

企業に蓄積される機密情報資産の増大 ⇒ 安全な保管・管理は重要な経営課題の一つへ

- ・情報セキュリティ対策
- ・内部統制(IT全般統制)対応
- ・災害からのデータ保護



- ・情報の貸金庫機能
 - ・データ ディザスタリカバリ機能
- をトータルサービスとして提供



3. サービスプロバイダー事業の展開



■ CSKコミュニケーションズのテクニカルサポート事業

ハイテク分野のテクニカルサポートにおける圧倒的No. 1を目指して

- ・コールセンターの満足度がユーザーの満足度を左右する
- ・ユーザー満足度を得るためのコストが増大の一途を辿る
- ・ユーザーの声を反映し、製品/サービスの質を高めたい

- ・均一で高度な対応品質
- ・ワンコールでの問題解決力
- ・適切なコスト



3. サービスプロバイダー事業の展開



■ 地域金融機関、証券子会社向け証券総合サービス

■ 新証券システム (ESTREX) の開発・導入状況

2007/10 バックシステム完成済み (CSK-RB証券 導入済み)

2008/ 2 フロントシステム完成予定 (2008/3 CSK-RB証券 本番稼働開始予定)

⇒ 開発及びテストはスケジュールどおり進捗中

◆A社向け 2008/4の本番稼働予定にて導入計画確定

導入PRJスタート (2007/9 導入要件定義終了)

◆B社向け 2008/5の本番稼働予定にて導入計画確定

導入PRJスタート (2007/10~)

■ 営業状況

既存システムリプレイス (見込み顧客 12社)

地銀証券子会社設立 (見込み顧客 8社)

⇒ 現時点で導入確度の高い顧客も複数社あり順調に進捗中

■ みなとみらい21 43街区へ本社移転

■ グループ本社機能の移転

- ・CSKグループ本社ビルの構築
- ・システム開発拠点、BPOセンター、コンタクトセンター等事業拠点の構築

■ さまざまなCSR活動を核とした文化交流、商業施設の設置

- ・情報発信スペースの設置(社会貢献活動「CAMP」、アジア交流センター等)
- ・レストラン、フラワーショップ、有機野菜ショップ、育児施設等の設置

■ 研究施設の設置

- ・CSK-ISを主体とする医科学系先端研究施設の構築
- ・インキュベーションセンターの構築(IT/バイオ関連ベンチャー企業の育成)

- (施設概要)
- ・敷地面積：約7850㎡
 - ・延べ床面積：約84000㎡ 地上32階 地下2階
 - ・竣工予定：2011年(平成23年)12月
 - ・総事業費：430億円

<免責事項 Disclaimer >

本資料は、業績およびグループ事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、CSKホールディングス及び当社グループ会社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。本説明会及び資料の内容には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願い致します。

This material is intended to provide information about the business performance and strategy of the CSK Group. It is not intended and should not be construed as an inducement to purchase or sell stock in CSK HOLDINGS or CSK Group companies. Statements in this presentation and at the explanatory meeting that are not historical fact are forward-looking statements, based on the current beliefs, estimates and expectations of management. As these beliefs, estimates and expectations are subject to a number of risks, uncertainties, and assumptions, actual results may be materially different. CSK HOLDINGS undertakes no obligation to update any forward-looking statements, and shall in no event be liable for any damages arising out of the use or interpretation of this material. Please refrain from copying, disseminating or distributing this material without the prior consent of CSK HOLDINGS.